

災害に強い都市基盤整備の実現について

【建設部会】

長野県は、全国有数の山岳地帯であることに加え、牛伏寺断層を含めた糸魚川・静岡構造断層帯などを抱え、大災害の発生が懸念されるところである。

よって、災害に強い都市基盤をつくるためには、道路・河川・砂防の整備、公共施設の耐震化など、県内のインフラ整備の需要は依然として高く、地域経済への波及効果も大きいことから、引き続き、財政支援措置を行うよう要望する。

- 1 東日本大震災の復旧・復興対策が本格化する中で、国の公共事業予算が、被災地に重点的に振り分けられ、地方の社会資本整備に影響が出るのが懸念される。このため、東日本大震災による被災地への復興対策を講じていかなければならない中であっても、地方における公共事業が、引き続き、円滑に行えるための十分な予算を確保するよう国に要請すること。
- 2 平成20年6月に「信濃川水系河川整備基本方針」が策定された後、「同整備計画」は、平成21年3月の第2回全体調整会議以降滞っており、現時点で「整備計画骨子」作成には至っていないため、策定に向け、スケジュールを明示するとともに、千曲川の整備目標と河川改修事業計画を明確にすること。
水害に強く、安全で快適な生活環境とするためにも、「無堤防地区の築堤」、「未完成堤防（弱小堤防）の改修」、「立ヶ花・戸狩狭窄部の開削によるせきあげ区間の解消」等の抜本的な千曲川整備が、「同整備計画」に早期に位置付けられ、事業促進を図るよう、引き続き、国に要請すること。